

宮下の伊勢塚さん

昭和五十八年三月五日号

語ってくれた人

佐野忠夫さん(宮下)

病気をなおす神様

宮下には、「お伊勢塚」さんといって、病気を治す神様が祀られています。昔は、多くの人がお参りに来ましたが……。

これは、宮下に住む佐野さんが、子どものころ、よくお年寄りから聞かされた話です。

病気の旅人が……

いつごろのことだかわからんけどな、昔な、いくんちもいくんちも雨の日は続いたことが



あつたそつだ。

そのころあ富士川は、渡し船でむこう岸の岩瀬へ渡つたもんだけどな、みやあんち(田目)雨だもんで船場あ旅人でいつびやあで、宮下まで来たんだつて。そのころのたびや(旅は)難儀だつたようだ。その中でな、お伊勢参り途中の一人の重い皮膚病をもつた年寄りがいたそつだ。

あんまり活にやあもんでな、どこの家でも泊めちやあくれにやあので、雨に打たれて、とほとほ杖を頼りに宮下村まで来てな、ある家のとば口に立つてなあ、「ひと晩とめてくだせえ」と頼んだそつだ。その可哀想な姿を見て、情け深いその家の人達は気持よく泊めてやつてな。やれお風呂だ、ぬくてえおかゆだ、とそりやあ親身に世話してやつたそつだけん

どなあ、なにしろひどく病んでる上に、雨に叩かれて何日も歩いてきたもんでなあ、とうとうそれから間もなく死んでしまつたそつだ。

死ぬ時にな、「どうか私をここへ祀つてください。そうすれば、今後私と同じ病で苦しむ人たちを救つてあげられる…」こう言い残したので、その家の人をはじめ、村の人たちが力を合わせて、そこへ祠を建ててやつたと。